

自然体験研修

自然とのふれあいを楽しむ（自然体験）

晝間 初枝（四街道市）

日 時：2026年1月19日（月）14:00～15:10、天候：薄曇り

場 所：ChaCha Children Yachiyo

参加者：保育士 14名

担当指導員：晝間（講師）

お昼寝をしている合間の研修会、今回は初めて園庭で行いました。

自然体験1:五感トレーニング・葉っぱ遊び

日ざしは弱いながらも木を触ると温かい・冷たい所がある。ほぼ全員が気づいたが感覚は個人差があることから子どもの感性や表現を大切にするように話した。その後、園庭をお散歩、サクラの木肌に触ったり、冬芽を見たり、ケヤキの樹形の真似をしたりした。時間が限られていることからゆっくりとはいかないまでも子どもの目の高さや視野を体験した。一巡後、じゃんけん落ち葉拾いや葉っぱじゃんけん、葉っぱの仲間づくりで楽しく遊びながら、葉っぱの特性に気づくようにした。



木のひら温度計

自然体験2:「冬の自然に触れよう、遊ぼう」をテーマに2つの視点から体験した。

その1は、「冬でしか感じられない自然現象」

寒い冬の朝、霜、氷、雪、冷たい空気など冬にしか感じられないきれいで不思議な自然現象に出会える。霜柱を踏んだときの“ザクザク”、氷の“パリパリ”、雪の“ギュッギュツ”…機会を捉えて、触れる・観察する・遊ぶことで季節や自然現象に興味を持つきっかけになることを話した。

その2は、「冬でしか見られない動植物の姿」

冬は虫の姿も見られなくなり、葉っぱも落ち葉へと変わっていくため、自然の中で遊べる要素があまりないと思われがちであるが、冬にしか見られないものがあり、楽しみもたくさんある。

虫などの生き物は、石や落ち葉の下、土の中、木の幹の割れ目などを利用して冬越しをしていることから、みんなで探したが小さなクモしか見つからなかった。しかし、どこにいるかを予想して探すと出会える確率は高いことを伝えた。

次に、葉を落とした木も、よく見ると小さな芽があることから冬芽探しをした。サクラの冬芽はまだ小さいが尖った葉芽とわずかにふくらした花芽があること、コブシは、ふわふわした花芽とつるつとした葉芽に触れ、花芽の皮を剥いたり、中を覗いたりして花や葉がしっかりくるまって春を待っていることが分かった。アジサイは、葉脈が見える葉をしっかりと重ねていること、葉が落ちたあとの葉痕と合わせてみるとかわいい。オニグルミのひつじ顔、クズのこけし顔などおもしろい冬芽・葉痕をみて、今まで意識しなかったと言う冬の木に興味を抱いてくれたらうれしい。花の少ない冬に咲くツバキは、花の中にたっぷりある蜜を鳥になったつもりで舐めてみた。

最後に園庭の隅の草地へ。放置されたその場所は、タンポポのロゼット、カラスノエンドウ、ハルジオンなど春を代表する草に覆われていた。チョウやバッタなど虫たちの宝庫にもなりそうであることから、雑草園としての活用を勧め、研修を終えた。



葉っぱの仲間づくり



コブシの花芽



冬芽観察